

## 当院のアスピリン腸溶錠服用患者における抗潰瘍剤の併用状況及び上部消化管出血の発現状況調査

### 1. 研究の対象

2013年～2017年にアスピリン腸溶錠（バイアスピリン<sup>®</sup>）を服用していた方

### 2. 研究目的・方法

当院で2013年～2017年にアスピリン腸溶錠を服用している患者を対象として、年齢・性別・服用している抗血栓薬の種類・抗潰瘍剤の種類を調査し、抗潰瘍剤の併用状況について他の報告との比較を行った。また同期間内に内視鏡検査を施行し上部消化管出血を指摘された患者のうち、アスピリン腸溶錠の服用している患者の年齢・性別・胃薬の併用有無を電子カルテを用いて後ろ向きに調査した。抗潰瘍剤はプロトンポンプ阻害薬（ネキシウム<sup>®</sup>・タケプロン<sup>®</sup>、オメプラゾン<sup>®</sup>、オメプラール<sup>®</sup>、パリエット<sup>®</sup>等）・ヒスタミン H2 受容体拮抗薬（ガスター<sup>®</sup>、ファモチジン、アシノン<sup>®</sup>、タガメット<sup>®</sup>等）・レバミピド（ムコスタ<sup>®</sup>）を対象とした。

### 3. 研究に用いる資料・情報の種類

年齢・性別・服用している抗血栓薬の種類・抗潰瘍剤の種類を調査し、抗潰瘍剤の併用状況、上部消化管出血の発現有無 等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。  
また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

紹介先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者：

京都中部総合医療センター 薬剤部 薬剤師 関 奈緒子

-----以上